

## 「地球観測技術の災害対策・災害対応への連携的な活用」を開催しました(2017/11/28)

テーマ：リモートセンシング  
場所：仙台国際センター 白樺2

世界防災フォーラム開催最終日の11月28日に、「地球観測技術の災害対策・災害対応への連携的な活用」と題してセッションを開催しました。セッションでは、地球観測（リモートセンシング）や宇宙技術を基盤とした技術を防災における取組に導入することで、いかに「仙台防災枠組」の目標達成の評価に寄与するかについて、参考となる事例を交えて4件の講演を行い、約30名が参加しました。4件の講演を通じて、地球の観測や宇宙を基盤とした技術の利用、及び仙台防災枠組における当該技術の活用の推進について議論し、課題・展望を共有することができました。また、当研究所の越村俊一教授（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）がモデレーターを務めました。講演者と講演のタイトルは、以下のとおりです。

### <導入>

越村俊一（東北大学災害科学国際研究所）

「地球観測技術の災害対策・災害対応への連携的な活用」

### <講演>

山崎文雄（千葉大学）

「リモートセンシングによる広域被害把握と災害対応への貢献に向けた展望」

Ronald Eguchi (ImageCat, Inc.)

「民間セクターのリモートセンシング技術の活用による災害対策の推進」

川北史朗（JAXA）

「センチネルアジアの活動について」

松岡昌志（東京工業大学）

「リモートセンシングによる広域被害把握の最先端技術について」



会場の様子



越村教授

文責：越村俊一（災害リスク研究部門）